二〇二三年度

一般入試　第一回

国語

二月一〇日実施

【注意事項】

① 開始の合図があるまで、冊子を開いてはいけません。
② 試験時間は五〇分間です。
③ 問題は一ページから十五ページまであります。
④ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
⑤ 下敷きは使用できません。
⑥ はじめに、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。
⑦ 質問がある場合は、挙手をしてください。

※設問の都合上、文章の一部を改変しています。
※解答に字数の指定がある場合は、特に指示がない限り、句読点なども一字に数えて解答しなさい。

［一］次の①～⑦の傍線部の漢字の読みをひらがなで答え、⑧～⑮の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

① 冬山の登山に挑む。

② 大企業の工場を誘致する。

③ 不正取引が露見する。

④ 消費者に陳謝する。

⑤ 真理を究める。

⑥ 度肝を抜かれる。

⑦ ゲームソフトを廉価で売る。

⑧ 外国語をタクみに操る。

⑨ 立候補者を一人にシボる。

⑩ 規制をカンワする。

⑪ 声にヨクヨウをつけて話す。

⑫ ムしたパンを食べる。

⑬ エンテンカでの運動を避ける。

⑭ カクゼツした実力差がある。

⑮ 彼はケッシュツした人物だ。

［二］次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「日本人はシャイですから、あまり思ったことをきちんと言わないのですよ」という言い方をこれまで何度日本人自身の口から聞いたことでしょうか。

二〇一三年九月七日、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピック大会の東京開催が決まりました。そこで前面に出てきた考え方が、「おもてなし」という※コンセプトです。他人に対して優しさと思いやりを持って、相手に※ホスピタリティを届けていく。親切であり、慎み深い。「おもてなし」はそんな日本人の奥ゆかしさから生まれる、素晴らしい行動です。

でも、この奥ゆかしさや謙遜（けんそん）と、ときに誤解されそうな心理が、「シャイネス」という心理的傾向です。照れ屋さんと言ったらいいでしょうか。「あの人は言いたいことはあるけれど、照れているので、きちんと言わないのですよ」と言えば、それを聞いた相手は、「そうか、あの人はきっと素晴らしい実力やアイディアを持っているのだけれど、照れて言わないのだな」と解釈してくれる。

この場合、「シャイネス」は、謙譲や謙遜、奥ゆかしさ、エレガンスの代名詞であり、美的にはプラスのイメージを持つコンセプトでした。海外の人々も、「シャイな日本人だから、そんなに主張しないのが当然だ」として、①これを温かい気持ちで受け止めてきた傾向があります。

けれど、最近のように、言うべきことは主張し、必要な影響力は相手に与えていかねばならないグローバル社会になってくると、「シャイですから」と照れてニコニコしているだけでは何も解決しません。相手もまた、②「シャイ」だけを前面に出している日本人にはイライラするでしょう。

さらにもう一つ、この「シャイネス」には落とし穴があります。自分が本当は自分の考えを［Ⅰ］に組み立て、言い方にも工夫をし、努力して表現しなければいけないときに、「自分はシャイだから」といって口をつぐんでいること。それが自分自身の自己防衛であり、言い訳になってしまうことです。

「シャイだから」という言葉は時代の変化と共に、「日本人の美徳」から、良い自己表現をするために「克服しなければならない課題」として注目されるべき仕組みに変化したと言えるでしょう。もう「シャイだから」という言葉を言い訳にしているだけでは通らない時代になったのです。

フェイスブックやツイッターのやりとりを見ていると、［Ⅱ］なメッセージを発信するときには、「いいね」と書けば十分。自

分が書いた内容が気に入らないときは、サッとボタンを押して削除すれば良い。

③こんなコミュニケーションの取り方に慣れてくると、感情を込めて、どの言い方がふさわしいかと言葉を選択し、その言葉をどのように並べるか語順にもさまざまな工夫をこらすという、日本語本来の美しさを丁寧に扱ってコミュニケーションをしてきたやり方をしなくても、なんとなく相手とのやりとりが成立する時代になってきました。

A 同じ「雪が降る」にしても、吹雪くのと、粉雪がさらさらと舞ったり、しめったぼた雪が空から次々と落ちてくるのとでは、醸し出す情感がまったく違います。

でも、これをネット上で相手に伝えるときには、雪の確率何パーセントと書けば終わってしまう。相手もそれでわかったつもりになる。湿度何パーセント、気温何度。確かに事実の伝達としては正しいことです。でも、このように叙事的な記述が多く、すべてを簡単な記述で終わらせていると、自分の繊細な気持ちや、相手に対する親しみや尊敬を微妙なグラデーションを伴って話すというフェイストゥフェイスのおつきあいが面倒になってきます。

実際に、④繊細なコミュニケーションが苦手な子どもや若者が増えているのです。その背景には実は少子化も影響しています。兄弟がたくさんいれば、自分が何をしたいかきちんとした言葉で主張し、その言葉にふさわしい顔の表情や声の工夫が必要でした。

けれど、少子化の中で家に一人しかいない子どもは、わが家の王子様や王女様です。親は子どもの感情が言葉に出るよりも先回りし、※忖度(そんたく)して、「この子はいま、不愉快なんだろう」と思ったり、リンゴを見てもなかなか食べない子どもに対して、「リンゴじゃなくてイチゴがいいの？」と訊(き)いてあげてしまったりします。以前でしたら大家族や兄弟の中で鍛えられた自己表現力が、いまは家庭の中でなかなか鍛えられにくい環境にあるのです。

ネット化と少子化はその意味で、自己表現の仕方に工夫をこらし、切磋琢磨(せっさたくま)し、自己表現力を向上させて相手と競争するという力を現在の日本人から少しずつ奪っている原因になっています。人と直接会うのが苦手だという人は多く、実際、私のパフォーマンス学のセミナーでも、相手と直接話す人間関係が苦手で鬱(うつ)になったり、出社拒否、不登校になっている人たちが何人も参加しています。イエスかノーかのデジタル社会の中で、デジタル伝言だけでは人間関係が成立していかない。そのことに一番苦しんでいる人たちでしょう。

自己表現の仕組みには、シンプルにイエスかノーかだけで片付くものと、非常に繊細で表現に工夫をしなければならないものがある。この二重構造の中ですべての人がきちんと自己表現力を身につける必要があります。

大学に所属している学校カウンセラーだけでなく、大学生に対するキャリア支援を専門にするキャリアカウンセラー、また、会

社などの転職や就職の相談に乗るキャリアカウンセラーが活躍している時代です。

自分はどの職業に合っているのかを見極めることができるかどうか、それは人生の幸せと不幸を分ける大きな問題です。だから、自分自身で判断することが難しく、⑤専門家のキャリアカウンセラーやスクールカウンセラーの助けを借りるのは賢明な選択だといえます。

ところが、ここでもう一つ考えておかなければならない、もっと重要な問題があるのです。もしもその人がキャリアカウンセラーやスクールカウンセラーに自分自身の実態をきちんと伝えていなければ、どんな素晴らしいカウンセラーでも、なかなかその人に最もふさわしい助言をしたり、職業を推薦したり※斡旋（あっせん）したりすることは難しいということです。

B キャリアとは何でしょうか。これは古代ギリシャ時代に勝者が広場を行進するときに使った「チャリオット（chariot）」と呼ばれた馬、または人が引く二輪車に語源を得ています。この⑥二輪車は人や馬が引かなければ止まってしまいます。

そして、人や馬が引いて行く限り、後ろに二本のくっきりとした轍（わだち）ができていきます。この轍が「チャリビア」でした「チャリオット」から「チャリビア」、そして「キャリア」へと変化していったのです。すなわちキャリアとは、生涯あなたが引っぱり続けていく自分の職業であり、また、それによって形成される人生そのものと言ってもいいでしょう。

だから、キャリアは大変大事なものです。しかし、それを決めるためには、自分の適性を自分自身がわかっていること。そして、その適性について自分が迷う場合、キャリアカウンセラーやスクールカウンセラーに相談するのですが、それには自分の実力や人格、長所、弱点、希望、欲求などを正直に見せていかない限り、どうやったって伝わらないのです。

自分の見せ方、伝え方が重要な問題になってきます。シャイだからといってはにかんでいたり、きちんと伝えると相手に軽蔑されるかもしれないという自己防衛心で、自分の力を必要以上に大きく見せていたりすると、実際にはカウンセラーがその人に正しい職業を選んであげることができません。就職面接や、先生や親戚に仕事の紹介を頼む場合にも同じことが言えます。

自己表現をすることは重要なことですが、等身大の自分を的確に見せていくというパフォーマンスがここでは何より大事です。実物以上に大きく見せたり（自己高揚的自己呈示）、実物よりも大幅に小さく見せたり（自己卑下的自己呈示）、こんなことをやっていると、なかなか本当のあなたが相手に伝わっていきません。ここは覚悟を決めて、等身大の自分自身を相手に伝えていく必要があるのです。そこには強い意志や自己表現の訓練が必要です。

「日本人が大きなことを決めるには根回しが必要です」と外国の人に説明すると、「それはロビイングのことか」と質問されることがあります。確かに、根回しとロビイングは同じだと誤解されがちです。C、これははっきりと違うものです。

ロビイング（lobbying）は、ロビー（lobby）という動詞から来ています。議会のロビーに出入りすること、[D]議員に何か話して働きかけること、これがロビイングです。ですから、ロビイングは議会を開いている時に、会場と会場外を同じ議員と同じ人が出入りをしながら話をする、そのことを指しています。

一方、根回しは、これとは違う[Ⅲ]があります。もともと根回しは、大木を移植するときに、一、二年前にその木の広がった根を整理して、次の場所に根付きやすくするためにやった作業でした。そこから、大きなことを決める前に、これという人を動かすために別の人を動かしておくことという意味が生まれたのです。

これは、集団主義文化のコミュニケーションの最たる特徴であり、タテ社会の特徴でもあります。ある人を動かすのに対して、いきなり会場で賛成の挙手などしても潰（つぶ）されるだけです。したがって別の人にちゃんと話をつけておいて、実際の挙手の場面ではほとんどの人が賛成に回るようにさせる、これが根回しです。

正確に言えば、ロビイングはヨコ社会の特徴であり、同時発生的な自己表現、一方、根回しはタテ社会の特徴で、根気よく当日より以前に時間を使っていく自己表現の積み重ねだと言えます。「根回し」は、やはり日本人の集団主義文化の中での自己表現の産物なのです。

―佐藤綾子『非言語表現の威力』による―

（注）　※コンセプト…概念。考え方。
※ホスピタリティ…親切なもてなし。
※忖度…他人の気持ちをおしはかること。
※斡旋…間に入って、双方がうまくいくように取りはからうこと。

問一　傍線部①「これ」は何を指すか。文中の言葉を用いて二十字以内で説明しなさい。

問二　傍線部②『シャイ』だけを前面に出している日本人にはイライラするでしょう」とあるが、それはなぜか。適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　日本人の優しさや思いやりが称賛されるのは、オリンピック・パラリンピック大会のような場面のみであるから。

イ　グローバル社会では、シャイであることよりも素晴らしい実力やアイディアを持つことが重要であるから。

ウ　グローバル社会において海外の人々は、言うべきことを主張し相手に影響力を与えることが大事であると考えるから。

エ　日本人はシャイという言葉をプラスのイメージでしか捉えておらず、その価値観を相手にも押し付けようとするから。

問三　[Ⅰ]・[Ⅱ]に入る適当な語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　論理的　　イ　批判的　　ウ　社会的　　エ　肯定的　　オ　理想的

問四　傍線部③「こんなコミュニケーションの取り方」とは、どのようなものか。それを説明した次の文の空欄に入れる言葉を、これより後の文中から三十字以内で探し、抜き出しなさい。

[　　]ようなコミュニケーションの取り方。

問五　[A]～[D]に入る適当な語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　しかし　　イ　そして　　ウ　そもそも　　エ　なぜなら　　オ　たとえば

問六　傍線部④「繊細なコミュニケーションが苦手な子どもや若者が増えているのです」とあるが、その理由を「少子化」という言葉を用いて五十字以内で説明しなさい。

問七　傍線部⑤「専門家のキャリアカウンセラーやスクールカウンセラーの助けを借りる」とあるが、「専門家のキャリアカウンセラーやスクールカウンセラー」に相談する上で必要なことは何だと筆者は考えているか。適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　慎み深い態度で相手に接し、自己主張を控えること。
イ　自分自身の実力や欲求などを正直に相手に伝えること。
ウ　言葉の微妙な意味合いよりも感情が伝わるように話すこと。
エ　相手が求めていることに対しても助言をすること。

問八　傍線部⑥「二輪車」は何の比喩か。適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　専門のカウンセラーを頼りにするだけで自分から行動しない人。
イ　人間関係が成立しないデジタル化した日本の社会。
ウ　生涯引っ張り続けていく自分の職業やそれによって形成される人生。
エ　コミュニケーションの訓練を通して身につく自己表現の仕組み。

問九　Ⅲ に入る適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　温度差　　イ　高低差　　ウ　個人差　　エ　時間差

問十　次の（1）～（5）について、本文の内容に合うものは○、そうでないものは×でそれぞれ答えなさい。

（1）自己表現は常に繊細なものであるから、きちんとした自己表現力を身に付けなければならない。
（2）自分の職業の適否を見極めることは、人生の幸せと不幸せを分けることにもなる。
（3）本来の日本語は、簡単な事実の伝達を通してさまざまな情感を表現できる言葉である。
（4）「根回し」は、タテ社会の集団主義文化が生み出した自己表現の特徴である。
（5）自分を過度に大きく見せたり小さく見せたりすることは、本当の自己表現とは言えない。

［三］次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

真崎光一は大学受験を目指して浪人中であり、一日中家にいる。ある日、親戚の叔父が亡くなり、叔父と同居していたばあちゃんが光一の家族と一緒に住むことになった。温厚で小柄で至って普通のばあちゃんだが、なぜか多くの人に慕われている。しかし、ばあちゃんが家に来てから母の奈津美がパート先の大吉を辞め、父には会社からリストラされるという話があり、妹の光来が補導されるなど問題ばかりが起こる。そんな時、ばあちゃんが知人の預かっている犬を自分が預かりたいと言い出す。

問題集を広げたが、頭が［A］働かない。廊下をはさんだ向かい側の部屋にいるはずの光来は、眠っているのか、それともふてくされてイヤホンで音楽でも聴いているのか、物音がしない。

尿意を催したが、ちょうどそのときに父ちゃんが帰宅したらしい気配があったので、床に伏せて耳をつけてみた。母ちゃんが、光来のことや大吉を辞めたことを話すはずだ。

だが、ごにょごにょと母ちゃんが何か言っているらしいことは判るのだが、内容までは聞き取れなかった。

そして突然、母ちゃんの「えーっ」という大声が響いた。

少し迷ったが、光一は階段を下りた。母ちゃんはダイニング側のテーブル席に座り、父ちゃんはリビング側のソファに横になっていた。普段はあまり飲まない父ちゃんが、顔を赤くして、片手で顔を隠すようにしている。

明らかに、①場が凍りついていた。何だ、何だ。

どういう言葉から切り出せばいいのか判らずにいると、父ちゃんがソファからむっくりと身を起こした。

「光一、お前にはこの際、隠さないで言うよ。でも、光来と、おばあちゃんにはまだしばらくの間、黙っておいてくれるか」

「え？　ああ……」

光一が、あいまいにうなずくと、父ちゃんは咳払いをした。

「お父さん、今日、会社から戦力外の通告を受けた」

「へ？　戦力？」

「八月末までに辞めてくれと言われたんだ。リストラだよ」

まーじーかー。

母ちゃんを見ると、両手で頭を抱えたまま、下を向いている。

「辞めなきゃいけないの？」

父ちゃんは、ふーっと息を吐いて、片手で顔を乱暴にこすった。
「法律上、対抗することはできると思う。一方的に辞めろと言われて、はいそうですかと応じる道理はないからね。しかし、法律上の建前と現実社会ってのは、違うんだ。ごねて辞めないでいると、仕事を取り上げられたり、意味のない作業を命じられたり、ささいなミスをあげつらって罵倒されたりといった、いじめに耐えなければならなくなる。そうでなくても、会社は右肩下がりで、船自体が沈没しそうな②危機的状況にある。リストラを断行しなければ本当に潰れる、そうなったら社員全員がX路頭に迷うことになる、だから頼むから会社を助けてくれと懇願されてね……少し考えさせてください、としか言えなかった」
「……」
「会社の方は、それなりの退職金を用意すると言ってる。しかし、この年で再就職が簡単に見つかるわけもない。大卒の新規採用だって簡単には内定が取れないご時世だ。B……どうすればいいのかな」
どうすればいいのか。そんなこと浪人生の息子に答えられるわけないじゃんか。
父ちゃんはリストラされて仕事を失いかけている。パート仕事で家計を支えていた母ちゃんも辞めるという。息子は浪人生の※穀潰しで、娘は喧嘩で補導される始末。おまけに、ばあちゃんが同居するようになった。
この家は、どうなってしまったんだ。
③光一は、立っている部屋がぐるぐる回り始めたような錯覚に陥り、しゃがみ込みたくなった。
受験勉強をする心境になれず、トイレで用を足した後、机の下に隠し持っているブランデーを二口ラッパ飲みして、ベッドにもぐり込んだ。
これが夢だったらいいのに。
そのときにふと、妙なことが頭をよぎった。
ばあちゃんがうちに来てから、立て続けによくないことが起こっている。
④いや、そんなのは完全に言いがかりだ。ばあちゃんが悪いわけがない。たまたまだ。ばあちゃんが来る前から、父ちゃんの会社は経営状態がよくなかったし、母ちゃんがパートに出ていた大吉も、やはり人気がなくて、オーナー店長との折り合いも悪かったのだ。光来だって、今日たまたま騒ぎを起こして補導されたが、以前から帰宅が遅かったり外泊をしたりと素行が悪かった。何もかも、これまでのツケが溜まっての結果だ。
でも……。

何か、引っかかる。
ばあちゃんと同居してた伯父の栄一郎さんは、定年退職して第二の人生がこれから、というときに事業に失敗した挙げ句、不幸な事故死を遂げた。
いやいや、そんなYこじつけは駄目だ。栄一郎さんはもっと前から、ばあちゃんと同居してたのだ。ばあちゃんが疫病神だったとしたら、もっと早く不幸が訪れていたはずではないか。
何を考えてんだか。馬鹿。
光一はもう一口ブランデーをあおってから、頭まで布団をかぶった。

翌朝は小雨が降っていたが、昼前にやんだ。光一は、寝つきが遅かった分、目覚めたのは午前十時過ぎだった。いったん寝入った後、夜中にまた目覚めてブランデーをさらに飲んだせいで、少し頭が痛い。
家にいたのは、ばあちゃんだけだった。父ちゃんは、リストラを通告されながらも、今日は今日の仕事があるらしく、出勤したようだ。どんな心境で仕事をするのだろうか。
午後、ばあちゃんの散歩に同行した。交差点で立ち止まったときに、ばあちゃんが振り返って、笑顔で言った。
「光一さん、一つお願いがあるんだけど、聞いてもらえるかしら」
「何？」
きっと、光来のことで何かをしようとしてるんだと感じた。
「⑤江口さんがご近所から預かっているリキちゃんを、しばらく家で飼おうと思うのよ。協力してくれないかしら」
「へ？　あの柴犬？」
ばあちゃんは、笑顔のままうなずいた。何だよ、光来と関係ねえのか。
「江口さん、本当は犬が苦手なのに、飼い主の方が入院してるので、代わりに面倒みてるって言ってたでしょ」
「ああ……言ってたね」
「江口さんからは、美味しいお魚を何度もいただいているから、何かお返しをしなきゃと思ってるんだけど、私にできることって、そうないのよ。だから、せめてしばらくの間、リキちゃんを預かってあげることにしたらって思うんだけど、どうかしらね」
信号が青になったが、ばあちゃんは話が終わるまで動くつもりがないようだった。
「どうかしらって……江口さんは、ばあちゃんに昔、世話になったお礼がしたくてやってるんだから、あんまり気にしなくていい

んじゃないの？　それに、ばあちゃんは、もらったその魚でぬかみそ炊きとか、甘露煮とか作って、分けてあげてんだから」
「いただいているお魚、本当に余り物なのかどうか判らないけど、いつも新鮮で、おカネに換えたとしたら結構なものばかりだと思うのよ。少しぐらいお返しをしたぐらいでは、釣り合いが取れないでしょ。それに江口さん、この調子だと、まだまだお魚を届けてくれるような気がするのよ。それを当てにするつもりはないんだけど、C　こちらが申し訳ない気持ちになっちゃうでしょ」
「まあ、ねえ……」
「とにかく、江口さんのために、しばらくリキちゃんを預かりたいのよね」
「ばあちゃんがそうしたいって言うんだったら、いいんじゃない？　うちの親がどう思うか、判らないけど」
「そこが問題よね」ばあちゃんは、待ってましたとばかりに、口の端をにゅっと吊り上げてうなずいた。「だから光一さんにも、協力して欲しいのよ」
　光一は、父ちゃんがリストラされることや、母ちゃんがパート仕事を失ったことなどが気がかりで、それどころではない心境だったが、嫌だと言うZ口実も見つからなかったので、「協力って、俺は何をすればいいの」と聞き返した。

中　略

　ばあちゃんと一緒に帰宅すると、母ちゃんも帰っていて、ダイニングのテーブルで、少しあわてた様子で携帯をテーブルに置いた。誰かと話をした直後らしい。ばあちゃんが「ただいま帰りました」と言い、母ちゃんはばあちゃんの顔を見ないで「お帰りなさい」と言った。
「奈津美さん、今日は早いんですね」
「ええ、店の都合でちょっと。これからは勤務時間も不規則になりそうです」
「そうですか。奈津美さん、実は折り入ってお願いしたいことがあるんですけど、今ちょっと話をさせていただいてもいいかしら」
「はあ」母ちゃんは、何よ、いったいという感じの一瞥を光一にくれてから「何でしょうか」と聞いた。
「ときどきお魚を持って来てくださる江口さんのことはご存じかしら」
「会ったことはありませんけど、光一から聞いています。イワシのぬかみそ炊きとかサバ味噌も、その方がくださる魚で作ってるんでしょう」
「ええ、そうなの」ばあちゃんは、にこにこしながらうなずいた。「その江口さんのお知り合いの方が、身体を悪くされてしまって、入院なさったの。ご高齢の男性で、独り暮らしの方なのよ」

「はあ」話が見えなくて、⑥母ちゃんは少し苛ついているようだった。「それがどうかしたんですか」
「その方が飼ってらっしゃるワンちゃんをしばらくの間、私が預からせていただこうと思うんですけど、どうかしらね」
「はあ？」母ちゃんの声が一段高くなった。「どういうことですか」
「そのわんちゃん、とってもおとなしくていい犬なんだけど、誰も飼う人がいなくなってしまって、このままだと保健所で処分されることになりそうなの。江口さんは犬アレルギーで飼えないし、ご近所をあたってみたそうなんだけど、誰も手を上げてくれる人が見当たらなくて」
「はあ……」
「犬小屋は私の部屋の縁側のところに置いて、えさやり、うんちの世話などはちゃんとやりますから、しばらくの間だけ、置かせていただけないかしら。人に向かって吠えない、本当におとなしいわんちゃんなのよ」
「最近、この辺りで車に傷をつける犯罪が続発してるんだってさ」と光一が⑦［　　］をはさんだ。「ばあちゃんとさっき出かけようとしたときに、お巡りさんが来て、注意してくださいって言ってたよ。で、監視カメラがある家と、犬を飼ってる家は被害に遭ってないんだって。ちょうどいいんじゃない？」
　母ちゃんが向けた視線は、あんた、おばあちゃんに⑧同調してどういうつもりなのよ、という感じだった。
「しばらくの間って、どれぐらいなんですか」
「そうねえ、一か月ぐらい？　飼い主の方が退院した後も、しばらくは預かった方がよさそうですから、はっきりとは言えないんですけど」
　母ちゃんは溜息をついてから、「お義母さんがそうしたいとおっしゃるのなら、駄目とは言いませんから。この家は［D］、お義母さんの家ですし」と、嫌味たっぷりに言った。
　ばあちゃんは「ああ、よかった。奈津美さんならいいと言ってくれると思ってたけど、ほっとしたわ」と、⑨ちょっと芝居がかった感じで両手を叩いた。
　母ちゃんはというと、溜息をつきそうになって、飲み込んだようだった。

—山本甲士『ひかりの魔女』による—

（注）　※穀潰し…働かずに飯だけを食べる者。

問一　A ～ D に入る適語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　めったに　　イ　ますます　　ウ　ちっとも　　エ　そもそも　　オ　まったく

問二　傍線部①「場が凍りついていた」の時の「母ちゃん」の様子として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　父ちゃんが普段はあまり飲まないお酒を飲んだことに腹を立て、不愉快な気持ちになっている。
イ　父ちゃんの突然の大声に驚いてしまい、妻としてどう対応していいかわからずに戸惑っている。
ウ　父ちゃんが顔を赤くしながらふざけた様子で会社のリストラの話をしたので、あきれている。
エ　父ちゃんが会社からリストラされるという話を聞き、突然のことに驚いて茫然（ぼうぜん）としている。

問三　傍線部②「危機的状況にある」とは、どういうことか。適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　会社が多額の負債を抱えたため、社内が混乱して秩序を失いかけているということ。
イ　会社の業績が悪くなり、全社員がリストラされることに不安を抱えているということ。
ウ　会社の経営状態が悪化し、このままでは会社自体が倒産しかねない状況にあるということ。
エ　会社を存続させるためのリストラは、社員とその家族の生活の危機でもあるということ。

問四　二重傍線部X「路頭に迷う」・Y「こじつけ」・Z「口実」の意味として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

X「路頭に迷う」
ア　生活の手段を失い、暮らしに困ること。　　イ　道に迷ってしまい、さまようこと。
ウ　やることが見つからず、ぶらぶらすること。　　エ　失業し、再就職できずに困り果てること。

Y「こじつけ」
ア　言い訳をすることで、難を逃れること。　　イ　あれこれと考えすぎてしまうこと。
ウ　間違った方向に進んでいくこと。　　エ　無理に理屈や理由を作ること。

Z「口実」
ア　その場をうまく収めるためのうそ。　　イ　もっともらしい理由や言い訳。
ウ　相手を納得させるような意見。　　エ　つい口から出てしまう作り話。

問五　傍線部③「光一は、立っている～しゃがみ込みたくなった」とあるが、この時の「光一」の気持ちの説明として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　浪人生の自分がこれ以上は家族に迷惑をかけられないと悟り、かといって何をどうしていいのかもわからず、この家から逃げ出したい気分になっている。

イ　父親だけでなく母親が仕事を辞め、妹が補導されるなど次から次へとふりかかる問題に、避けようのない運命を感じ取っている。

ウ　自分の家族に一度に押し寄せてきた不幸な出来事の連続にとまどい、浪人生という自分の立場も含め、これからどうなってしまうのかわからず、困惑している。

エ　父ちゃんがリストラされる話だけでも驚いたのに、母親のパートの話や妹の素行の悪さなど、どれもこれも初めて耳にする話ばかりに激しく動揺している。

問六　傍線部④「いや、そんなのは完全に言いがかりだ」とあるが、どうしてそう言えるのか。本文の内容に即して、その理由を四十字以内で説明しなさい。

問七　傍線部⑤「江口さんがご近所から～飼おうと思うのよ」とあるが、「ばあちゃん」はなぜこのように思ったのか。その説明として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　もともと犬が好きだったこともあり、光一の一家と同居をしたことをきっかけにして知り合いの犬を預かり、いずれはもらい受けようと思っているから。

イ　犬アレルギーなのに知り合いの犬を預かっている知人のために、この際いつも魚をいただいている恩返しがしたいと思い、自分が犬を預かろうと考えたから。

ウ　光一の家族にいくつもの不幸な出来事が起きたのは、自分が同居することになったせいだと思い、せめて犬を預かることで皆を元気づけたいと思っているから。

エ　ご高齢の江口さんが退院するまでの間だけならば問題ないし、江口さんの犬を預かることは人助けにもなるし、昔世話になったお礼ができると考えたから。

問八　傍線部⑥「母ちゃんは少し苛ついているようだった」とあるが、その理由として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　家計のことで苦心しなければならない時に、前置きばかりが長く何を言いたいのかわからないばあちゃんの話し方にじれているから。

イ　最初から同居には反対だったのに、いつの間にか家に入り込み、好き勝手なことばかりをするばあちゃんに敵対心を持っているから。

ウ　家の中が混乱している時に、息子を散歩につき合わせたり知人から物をもらったりするばあちゃんの無神経さにあきれているから。

エ　犬を飼うことは気が進まないのに、何としてでも犬を預かろうとするばあちゃんの強引さとわがままにいらだちを感じているから。

問九　傍線部⑦の□に入る適語を漢字一字（人の身体の部位を表す字）で答えなさい。

問十　傍線部⑧「同調」とあるが、だれのどのような行為のことか。本文の内容に即して簡潔に説明しなさい。

問十一　傍線部⑨「ちょっと芝居がかった感じで両手を叩いた」とあるが、この時の「ばあちゃん」の気持ちの説明として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　相手を説得できた喜びを隠すために、芝居がかった態度で上手くごまかそうとしている。

イ　光一の協力もあって説得できたが、相手の本心がわからないので探りを入れようとしている。

ウ　犬を預かることが意外にもあっさりと認められたので、感謝しつつも拍子抜けしている。

エ　願いを聞き入れてもらえたので、相手の気持ちが変わる前に話を終わらせようとしている。